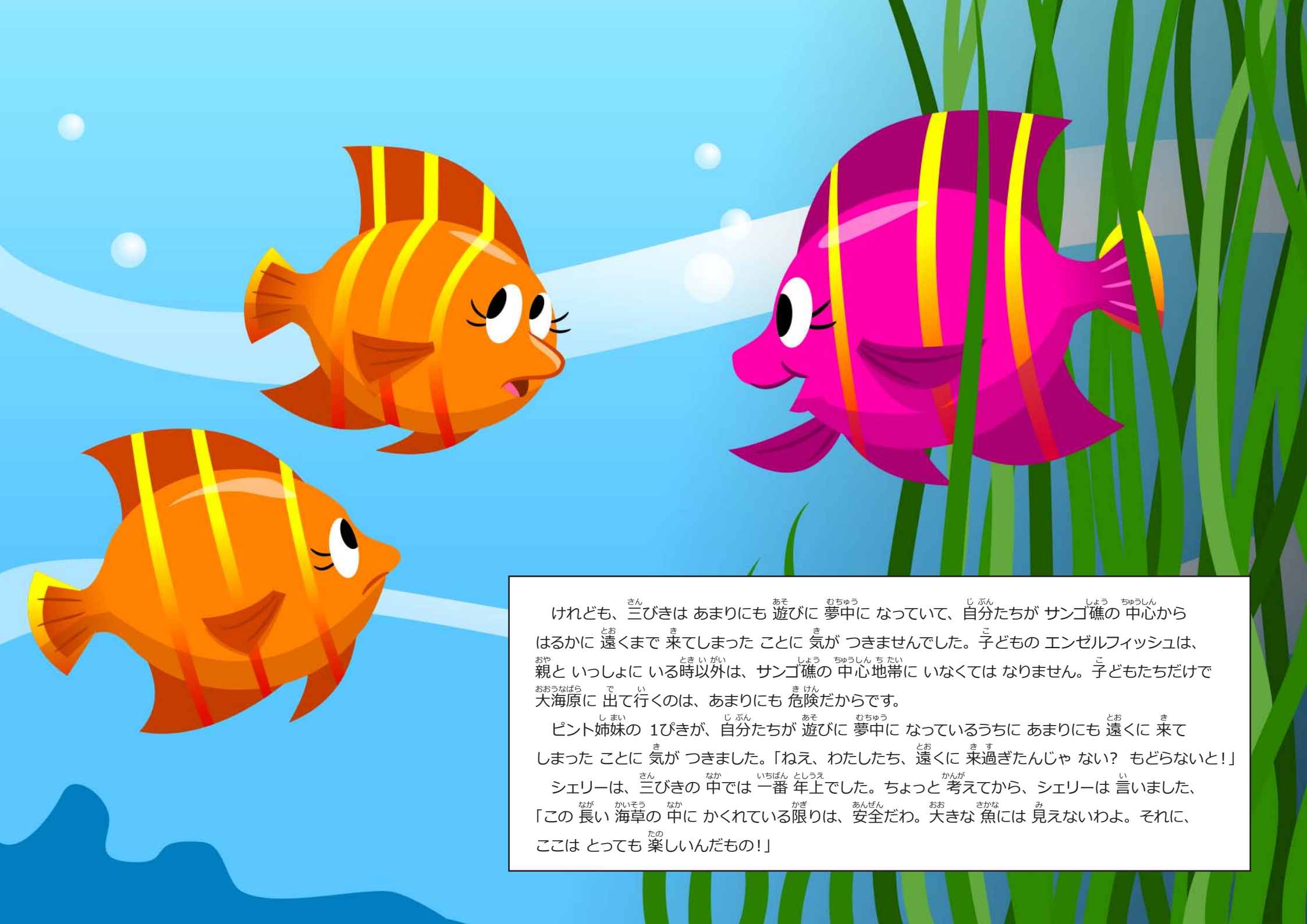
シェリー、大切な教訓を 学ぶ

大きくて 色とりどりの サンゴ礁に、幸せな エンゼルフィッシュの 家族が 住んでいました。パパと ママと お兄ちゃんの ベン、それに シェリーです。

シェリーの 家族は 毎日、食べ物を さがしたり、大きな 魚や その他の 危険な 生き物に ねらわれて いないか 気を 配るので、いそがしくしていました。でも、シェリーと ベンには ほかの 友だちと 泳ぎ回って 遊ぶ 時間が たっぷり ありました。

ある日、シェリーは ピント一家の 小さな 友だち 二ひきと、かくれんぼを して 遊んで いました。緑色の 長い 海草の かげに かくれ、サンゴの かげを 出たり 入ったり しながら、いないいないばぁを して 相手を おどろかすのです。



けれども、三びきは あまりにも 遊びに 夢中に なっていて、自分たちが サンゴ礁の 中心から はるかに 遠くまで 来てしまった ことに 気が つきませんでした。子どもの エンゼルフィッシュは、親と いっしょに いる時以外は、サンゴ礁の 中心地帯に いなくては なりません。子どもたちだけで 大海原に 出て行くのは、あまりにも 危険だからです。

ピント姉妹の 1ぴきが、自分たちが 遊びに 夢中に なっているうちに あまりにも 遠くに 来て しまった ことに 気が つきました。「ねえ、わたしたち、遠くに 来過ぎたんじゃ ない? もどらないと!」

シェリーは、三びきの 中では 一番 年上でした。ちょっと 考えてから、シェリーは 言いました、「この 長い 海草の 中に かくれている限りは、安全だわ。大きな 魚には 見えないわよ。それに、ここは とっても 楽しいんだもの!」

2ひきの 年下の 友だちは、そうかなあと 思いましたが、一番 年上の シェリーが そう 言うので、それで いいやと 思って 遊び続けました。

しばらくして、みんな おなかが すいてきたので、家に 帰りました。シェリーは、自分たちが あまりにも 遠くに 行ってしまった ことが パパと ママに わかってしまうかなあ、と 思いましたが、パパと ママは 何も 言いませんでした。

次の 日、シェリーが 外に 泳ぎ出てみると、サンゴ礁の 片すみに 魚たちが みんな 集まって、何やら 話し合っています。

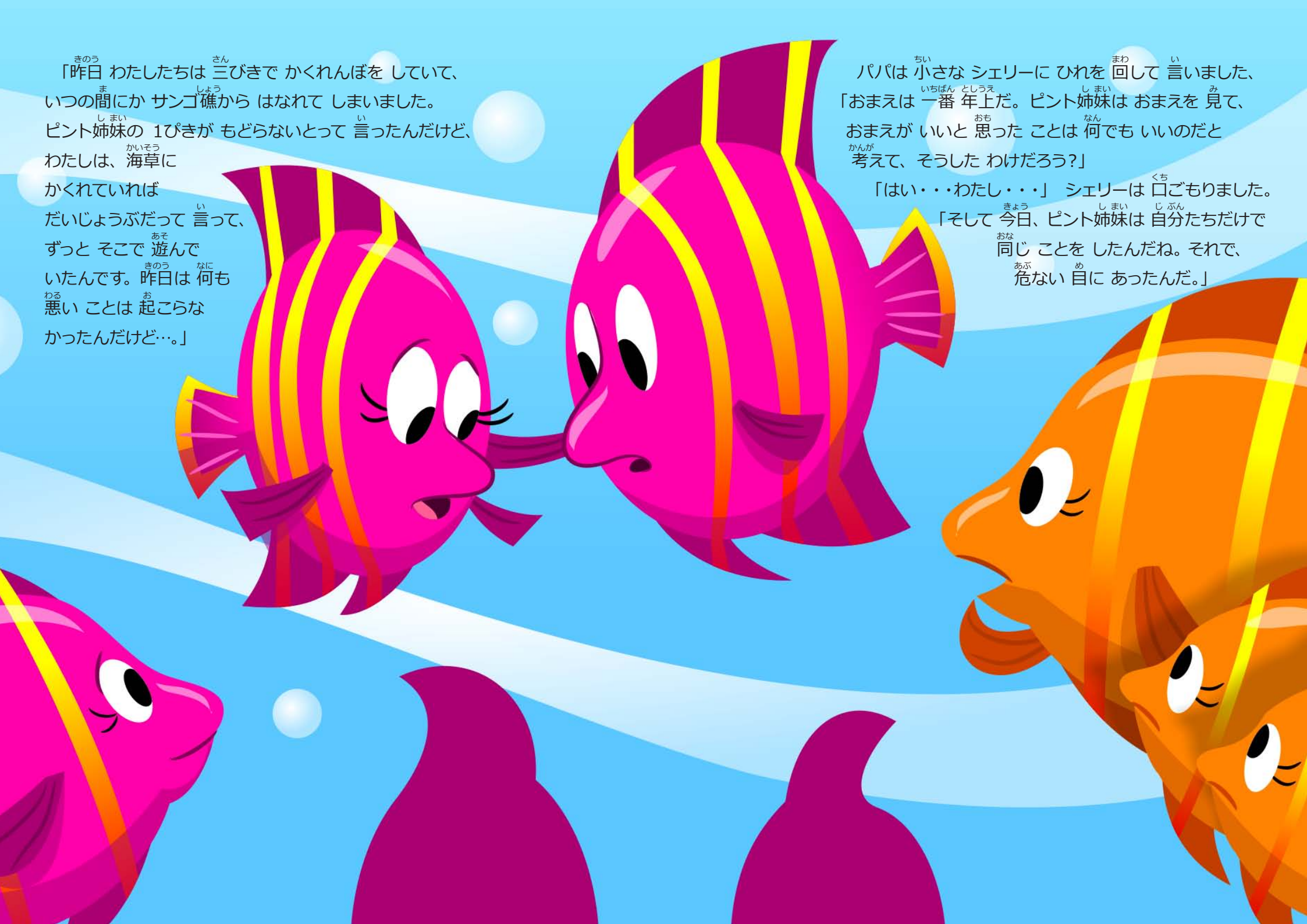
（一体 何が 起こったのかしら?）と シェリーは 思いました。

みんなの いる方に 泳いでいくと、パパが ほかの 魚に 話している 声が 聞こえました。
「ピント姉妹は 今日、もう 少しで ばかでかい 魚に 出くわす ところだったよ。
ちょうど わたしが 見はりを
していた 時、あの 大きな 魚が
ピント姉妹の いる方に やって来た
ところを 見つけたので 二ひきを
呼びもどし、安全な サンゴ礁の
中に かくれさせるのに
間に 合ったと
いう わけなんだ。
本当に あぶなかったよ。」

「でも、どうして こんな ことに なったの?」
小さな むすめたちの そばに 泳いできた ピント・ママが 聞きました。
「わたしも、それを 知りたいものだ。」 集まっている エンゼルフィッシュ みんなを 見渡しながら、パパが 言いました。
シェリーは むねが いっぱいに なり、か細い 声で 言いました。「わたしの せいだわ。本当に ごめんなさい。」
「こっちに 来なさい。」と パパが 言うと、魚たちは みんな、
シェリーのために 道を 開けました。

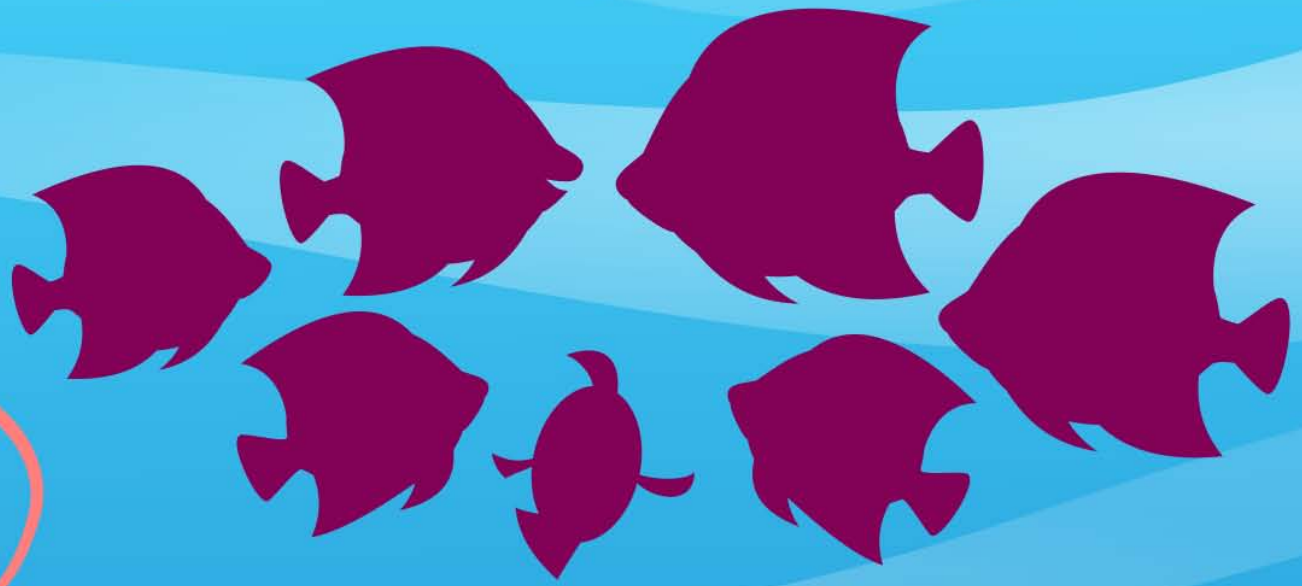
「昨日 わたしたちは 三びきで かくれんぼを していて、
いつの間にか サンゴ礁から はなれて しまいました。
ピント姉妹の 1ぴきが もどらないとって 言ったんだけど、
わたしは、海草に
かくれていれば
だいじょうぶだって 言って、
ずっと そこで 遊んで
いたんです。昨日は 何も
悪い ことは 起こらな
かったんだけど…。」

パパは 小さな シェリーに ひれを 回して 言いました、
「おまえは 一番 年上だ。ピント姉妹は おまえを 見て、
おまえが いいと 思った ことは 何でも いいのだと
考えて、そうした わけだろう?」
「はい・・・わたし・・・」 シェリーは 口ごもりました。
「そして 今日、ピント姉妹は 自分たちだけで
同じ ことを したんだね。それで、
危ない 目に あったんだ。」



パパは、集まりの 前に いる 小さな エンゼルフィッシュ みんなを 見渡しました。「これは、みんなに とっても、とても 大切な 教訓だ。君たちは おたがいに、良い 手本に ならなくてはね。君たちの する ことは 何でも、小さな エンゼルフィッシュの だれかが まねを するかも しれないのだから。もし 良い 手本で いて 言いつけを 守るなら、ほかの 者たちも、それに 習って 言いつけを 守るだろう。だが、言いつけを 守らず、すべきで ない ことを するなら、それも、小さな 者たちが まねするだろうからね。」

「言いつけを 守らず、サンゴ礁の 外に 出て、本当に ごめんなさい。もう こんな ことは 二度と しません。だから、ほかの みんなも、こんな ことは しないでね。」と シェリーが 言いました。



彼女は パパに 言いました。「わたし、これからは、もっと 良い お手本に なるわ。わたしの する ことを ほかの 子どもたちも 見ていて、まねするって いう ことを、忘れないわね。」

パパは、シェリーの 背中を ポンポンと たたいて ウインクしました。「いい子だ、シェリー。がんばるんだよ。」

作者：不明　絵：ゼブ　デザイン：ステファン・ミーラー　出版：マイ・ワンダー・スタジオ
Copyright © 2013 年、ファミリーインターナショナル　“Yelli’ s Important Lesson” --Japanese
http://www.mywonderstudio.com/0-5/2013/8/26/yellis-important-lesson.html